



Rattles Set

つかむ、振る、手から手へ渡すといった動きを通して、原因と結果を体験します。手先の器用さ、音の聞き分け、自由な感覚探索を支えます。

内容

ガラガラ6個

対象市場

家庭・教育の両方

セットの内容



Abacus Rattle
9 × 4.5 × 10 cm



Triangle Rattle
9 × 4.5 × 10 cm



Roller Rattle
9 × 9 × 10 cm



Gripper Rattle
11 × 11 × 15 cm



Twist and Turn Rattle
9.5 × 8.5 × 12 cm



Mouse Rattle
9 × 4.5 × 10 cm

子どもが学ぶこと



手先の器用さ

つかむ、持つ、片方の手からもう一方の手へ渡す。アバカスのビーズを滑らせたり、ネズミのしっぽを回したりすることで、親指と人差し指でつまむ動きを促します。



原因と結果

振れば音が鳴り、止めれば止まる。音は自分が出すものと学びます。



言葉

音が大きい・小さい、速い・遅い、もっと、もう一度。動作とともに言葉を学びます。



感覚の発見

流れ落ちるビーズ、回るリング、転がっていくボール。6つの感触、6つの音、6つの色。



はじめての数

ビーズは1つずつすべります。数えることは、数になるずっと前に、リズムとしてはじまります。



社会性

Roller Rattleを友だちに向けて転がし、転がし返してもらうのを待つことは、赤ちゃんが順番を交代する遊びの第一歩です。

テーマ

はじめての音

大きい音、小さい音

わたしの体

色

音楽

順番を待つ



Learning through play

ひとつのセットで5年間遊べる



セットの4つの使い方

- ひとりで発見する：3～12か月**
マットの上の、手の届くところにガラガラ1個。近くにほかのものは置きません。起こったことは、起こったときに大人が言葉にします。
- 大人と2人で遊ぶ：6か月以上**
振って、止めて、転がし返して。大人がリズムを保ち、子どもは加わることと待つことを学びます。
- 少人数グループ：18か月～3歳**
輪になって1人1つのガラガラ。リーダーのまね、音あて、しずかな時間。
- 常設の遊びコーナー**
トレジャーバスケットや乳児室のトレーに1週間置いておきます。ガラガラを2つ取り出し、別の2つと入れ替えることで、新鮮な興味を保てます。

保育の現場で

- 小さな部品なし、電池なし。歯固めにも安心
- 拭いてきれいにできます。口にしたらあとは、ぬるま湯ですすぎます
- 浅いトレー1つに収まります。6個で、赤ちゃん6人にも、バスケット1つにも
- 6個セットでも、部屋じゅうに分けても使えます

観察のポイント

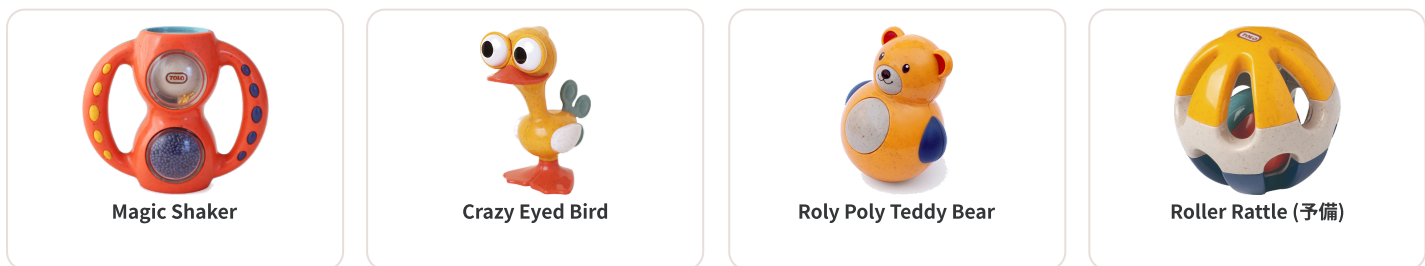
- ☐ 見えないところでガラガラの音がしたとき、おひさまは音のする方向に視線を向け、ガラガラを探そうとしますか？
- ☐ 音を出すために振りますか？それとも音は偶然出ているだけですか？
- ☐ 数の言葉ひとつにビーズひとつが動いていますか？それとも言葉だけが先に進んでいますか？
- ☐ ガラガラを落とさずに、片手からもう一方の手へ渡せますか？
- ☐ 手を添えられなくても、「止まれ」の言葉で止まれますか？
- ☐ ガラガラをほかの子や大人に差し出しますか？

学びの領域

- 身体の発達
- コミュニケーションと言葉
- 人間関係と心の発達
- 身近な世界の理解
- 数学
- 表現活動

セットを広げる

1歳までの同じシリーズです。原因と結果や、次の音づくりのステップにこれらを加えたり、Shaker, Bird & Teddy setと組み合わせて乳児室のトレーをそろえたりもできます。



1 手を伸ばして、握る

3~8か月
子ども1人+大人

用意するもの

ガラガラ1個。赤ちゃんは仰向け、または支えられて座った状態。

進め方

1. ガラガラを赤ちゃんの胸から20 cmほど離して、視線の先に持ちます。
2. 1回振って止めます。赤ちゃんがガラガラを目で見つけ、手を動かすのを待ちます。
3. 伸ばした手のところへ持っていきます。指がガラガラをつかめるようにします。
4. 落ちたら拾って、もう一度はじめます。3、4回くり返すと、ひとまとまりの活動になります。

学びのねらい

手を伸ばす 握る 目で追う力 原因と結果

やさしく — まず手の甲にガラガラを触れさせて、指が開くようにします。

難しく — 少し横にずらして差し出し、赤ちゃんが体をひねって、手を伸ばすようにします。

注目ポイント

手を伸ばすのは、振る前ですか？ それとも振ったあとだけですか？ ガラガラを見ただけで手を伸ばす赤ちゃんは、物と音を結びつけています。

2 振って、止めて、また振って

6~18か月
子ども1~2人+大人

用意するもの

1人1つのガラガラ。大人の分も1つ。

進め方

1. 子どもと向かい合って座ります。自分のガラガラを振って、「シャカ、シャカ、シャカ」と言います。
2. 急に振るのを止めて、「ストップ」と言います。そのまま動かさずに待ちます。
3. 子どもが止まったら、少し遅れても、笑顔でまたはじめます。
4. 役を交代します。子どもがリードし、大人がまねします。

学びのねらい

原因と結果 自己コントロール 聞く力 順番を待つ

やさしく — 最初の数回は、「ストップ」の合図に合わせて、お子様の手にそっと手を添え、ガラガラを振る動きを止めるのを手伝います。

難しく — 3つ目、4つ目の指示として「しずか」「おおきい」を加えます。

注目ポイント

動作を始めるよりも止めるほうが難しいものです。手を添えなくても「ストップ」の合図で動きを止められるお子様は、言葉による指示に応じて自分の動作を抑制できています。これは発達上の大切な節目です。

3 転がして返して

8か月~2歳
子ども2人+大人

用意するもの

Roller Rattle。何も無い床。子どもどうしは1メートル離れます。

進め方

1. 子ども2人を向かい合わせに座らせます。大人は小さいほうの子のそばに座ります。
2. ガラガラを最初の子にゆっくり転がします。「来るよ」と言います。
3. その子がガラガラを転がし返すのを手伝います。もう1人のお子様に「次は〇〇ちゃんの番だよ」と声をかけます。
4. 転がす、待つ、転がす。リズムを保ちます。うまくいったら、間を広げます。

学びのねらい

順番を待つ 目で追う力 全身運動 予測

やさしく — 大人が1人ずつ順番に転がします。転がし返しは不要です。

難しく — 子ども3人で三角形をつくります。誰に転がすかは子どもが選びます。

注目ポイント

転がす前に、友だちを見ますか？ 床ではなく人に向けて動作をするのは、ゲームのはじまりです。



4 ビーズを1つずつ

12か月～3歳
子ども1人+大人

用意するもの
Abacus Rattle。

進め方

1. ビーズが全部片側に寄るように持ちます。1つすべらせて「いち」。
2. 渡します。次のビーズをすべらせるのを待ちます。「に」。
3. 端まで交代で。全部戻して、もう一度はじめます。
4. 数は、毎回ゆっくり、同じ順番で言います。

学びのねらい

親指と人差し指でつまむ動き

数える

1対1対応

忍耐

やさしく — 大人がすべらせ、子どもは見て聞きます。そのあと手を重ねて一緒に動かします。

難しく — 最後のビーズを動かす前に「いくつ残ってる？」と尋ねます。

注目ポイント

数を1つ言うたびに、ビーズを1つ動かしていますか？ 数の言葉を順番に唱えるだけでなく、言葉とビーズの動きが1対1で対応しているかを観察しましょう。

5 どれの音？

18か月～3歳
子ども1～3人+大人

用意するもの
はっきり音が違うガラガラ3個。後ろに隠すための布か箱。

進め方

1. ガラガラを1つずつ、子どもに見えるところで振ります。名前を言います。
2. 3つとも隠します。見えないところで1つ振ります。
3. 出して見せます。「どれの音？」子どもに振って確かめてもらいます。
4. 正解できたら、3つの組み合わせを入れ替えます。

学びのねらい

聞く力

マッチング

記憶

語彙

やさしく — ガラガラは2個だけ、音がいちばん違うものにします。

難しく — 子どもが隠して振り、大人やほかの子が当てます。

注目ポイント

お様はガラガラを振って音を確認していますか？ それとも色だけを手がかりに予想していますか？ 予想した音を実際に確かめることは、科学的な考え方の第一歩です。

6 ガラガラバンド

2～3歳
子ども4～6人+大人

用意するもの
1人1つのガラガラ。輪になって座ります。

進め方

1. ガラガラを配ります。一緒に振って、はじめます。
2. 声と動作で伝えます。「はやく」「ゆっくり」「おおきく」「ちいさく」「止まれ」。それぞれ数秒続けます。
3. リーダーを1人選びます。グループはリーダーのすることをまねします。
4. 最後は、みんな静かにガラガラを床に置いて終わります。

学びのねらい

聞く力

自己コントロール

グループ遊び

反対

やさしく — 指示は2つだけ。振る、止まる。

難しく — リーダーが、動作を見せずに言葉だけで指示します。

注目ポイント

指示を待ってから動くお様は誰でしょうか？ 合図に関係なく振り続けるお様は誰でしょうか？ 集団の合図に合わせて自分の動作を調整する力は、時間をかけて育ちます。どの指示に応じられたかを記録しましょう。

